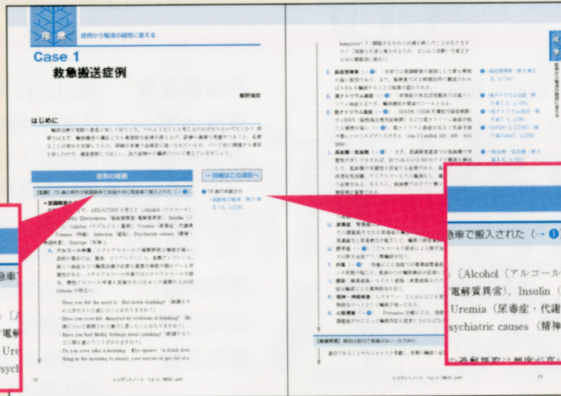


● 本書の使い方 ●

1 序章 症例から輸液の疑問に答える まず典型症例で診療に必要な輸液の知識、考えるべきことを知る

よくある典型症例を
経過を追って解説



関連する章を示している
ので、詳細は各章で
学べる

2 第1～6章 具体的な考え方、治療のしかたを学ぶ

① Basic Lecture で
必ず知っておきたい
基本をおさえる

Basic Lecture

症例
70歳男性
慢性心不全の既往がある70歳
男性、呼吸困難が強くなり救急搬送さ
れた。診察上、肺動脈の著明な拡張
に圧痕浮腫を認めた。
【検査所見】血清：Na 140 mEq/L
尿：比重 1.020。

② Step Up Lecture
で一歩進んだ知識や
難しい症例への理解
を深める

Step Up Lecture

症例：その後の経過
救急外来で心不全と判断し、5%ブドウ糖
ロゼミドを 20 mg IV 投与した。開始後に
セミド 20 mg IV を 12 時間ごとの継続指示と
両側肺野にまた crackle は聴取。下腿浮腫も
ある。

3 第7章 Advanced Lecture 専門医を悩ます輸液症例 最近話題となっているトピックについて知る

議論となっている、
専門医も悩ます症例

症例 (図)
脳梁欠損症、軽度知能障害、てんかんにて外傷
全身倦怠感を主訴に来院した。体温は 39.2℃、
全身倦怠感、頸部硬直、Kernig サイン陽性で、
【血液検査】末梢白血球 7,700/μL (好中球 77
Na 119 mEq/L、K 4.5 mEq/L、Cl 86 mEq/L、
血糖 110 mg/dL であった。Fractional excret
9.1% であった。
【動脈検査】糖化 HbA1c 7.040/3 (うち、単糖が 90
kg H₂O であった。尿中 Na 54 mEq/L、ウイ
of inappropriate secretion of antidiuretic hor

この症例のどこが
難しいのかポイント
で示す

何が難しいのか

・CSWSは、中脳神経病変に合併する低ナトリウム血症のため、誤って SIADH と診断
されることが少なくない

* 稿末の编者からのコメ
ントも併せて読めば、
理解が深まります